

放射性廃棄物処理処分に關しこれまでの策定会議でいただいたご意見

1. 放射性廃棄物の処理・処分の基本的な考え方

高レベル放射性廃棄物処分の方が低レベル放射性廃棄物処分よりはるかに大変ではないか。

原子力を循環型社会の中で位置づけることは非常におかしなこと。原子力発電が生み出す放射性廃棄物のやっかいさを考えれば、とても循環型社会と呼べるにはふさわしいものでないのではないか。

原子力における問題は、放射能を帯びていない一般の物質の問題とは同列に扱うことができない、原子力発電やバックエンド処理によって生じる大量の放射性物質を確実に隔離することが必要であり、安全確保を重要な評価項目として押さえることが必要ではないか。

放射性廃棄物はその便益を受けた現世代の責務であり、我々が安全かつ合理的に処理処分する必要がある、その場合、できるだけ放射性物質が拡散しないよう安定に減容するのが原則ではないか。

2. 放射性廃棄物の処理・処分に向けての取組

海外から返還される廃棄物や使用済MOX燃料の扱いについては経済性以外にも客観的に評価していかないといけない。例えば、外部性についても、より客観的に評価できるのではないか。

放射性廃棄物の安全かつ合理的な安全規制の構築を急ぐべきではないか。

原子燃料サイクル施設やこれらの施設から発生する放射性廃棄物を含めた科学的かつ合理的な安全規制の枠組みの整備を検討課題とすべきではないか。

中間貯蔵施設や高レベル放射性廃棄物処分場などの計画が各地で拒否されている状況から、市民の願いは原発からの撤退であると理解すべきではないか。

国は放射性廃棄物処理処分対策を早急に確立するとともに、核破砕により長寿命核種を短寿命核種に変換する技術開発等を積極的に進めるべきではないか。

ウラン濃縮工場から出るテールウラン、再処理工場から出る減損ウランについて、ウラン廃棄物にならないようにしていく必要があるのではないか。

TRUの併置処分についての実施主体のあり方等については、高レベル処分場の公募等も考慮して決めるべきでないか。

クリアランス制度については、法整備されていない状態であるが、産業廃棄物の処

理処分が問題となっている中、クリアランスされたものが有効利用されるか疑問である。これについてはゴミ問題の専門家を呼んで議論すべきではないか。

TRUの併置処分については、単に併置の影響といったものだけでなく、安全評価をどうしていくかということも考えなくてはならないのではないか。

返還廃棄物の等価交換については、メリット、デメリット、何をもって等価かということも含め、これから議論をしていくことが重要ではないか。

処分場の立地など廃棄物の処分の問題は社会的にもセンシティブな課題、円滑に進めるためには国民全体の理解必要、事業者、国が国民のご意見を聴きわかりやすく説明することが重要ではないか。

放射性廃棄物処分で半減期が長く長期間の管理を要するものについては、発生者責任だけを強調するのではなく、積極的な国の関与が必要ではないか。

高レベル放射性廃棄物の処分をいかに進めるかは大きな問題。どうやって地元の理解を得ていくか、国と地方の関係をどう進めるべきかについて長計の中で議論していく必要があるのではないか。

放射性廃棄物処理をする際、事業所ごとで規制する事業規制ではなく廃棄物そのものの性状で捉えた物質に着眼した規制で実施するべきではないか。

併置処分、返還廃棄物の課題については、別途専門の部会等における検討が必要ではないか。

RI・研究所等廃棄物の処理処分が安全かつ合理的に実施できるよう、安全規制などの制度を早急に整備していくべきではないか。

ウラン廃棄物の処理処分の取組が遅れており、安全規制などの制度をしっかりと整備していくべきではないか。

3. 今後の検討課題

廃棄物処分の減容化というのは非常に大切、将来の廃棄物産業という発展もあることから、世界に貢献していく、そういう技術を我が国も目指すべきではないか。

廃棄物の減容のために、核種の変換という技術をもっと協力に進めるよう、本計画においてもしっかり書いていくべきではないか。

サイクル中間とりまとめの際に、直接処分の調査研究も考えるとなっていたと思うが、その研究開発について今後どのように扱うのか検討すべきではないか。

以上